

2009 年制定 複合構造標準示方書発刊に伴う講習会 質問回答

No.	質問事項	回 答
1	・ 2007 制定 鋼・合成構造標準示方書 総則編・構造計画編・設計編 ・ 2008 制定 同上 耐震設計編 ・ 2009 制定 同上 施工編 が、すでに刊行されています。 一方で、 ・ 2009 制定 複合構造標準示方書 が新たに刊行されています。 上記の 3 編と下の 1 編は内容に具体的にどのような違いがあるのでしょうか。すべて必要なのでしょうか。 実際に私が必要としているのは、鋼とコンクリートの複合構造物についての基準としたいと考えています。対象構造物は橋梁上部工、下部工、擁壁、ケーソン、その他梁部材などです。	複合構造委員会（複合構造標準示方書）と鋼構造委員会（鋼・合成構造標準示方書）、ならびにコンクリート委員会（コンクリート標準示方書）が、それぞれの委員会の方針で独自に示方書を執筆しています。そのため、内容が重複する部分があれば、同じ対象構造物に対する内容でも若干異なる部分もあるのが現状です。 今後これらの示方書間の整合を取りつつ、統合して行くことが土木学会の長期的な課題となっています。 さて、お尋ねの対象構造物である、鋼とコンクリートとの複合構造物ですが、各示方書で対象としているものを簡単にまとめると以下のようになります。 （1）複合構造標準示方書 ・ 鋼コンクリート合成梁（いわゆる合成梁を含む） ・ 鋼コンクリート合成版（サンドイッチ版を含む） ・ 鋼コンクリート柱（SRC、CFT を含む） ・ 鋼とコンクリートとからなる異種部材接合 （2）鋼・合成構造標準示方書 ・ いわゆる鋼コンクリート合成梁 （3）コンクリート標準示方書 ・ SRC 部材 ・ コンクリート充填柱 ・ サンドイッチ部材 ただし、複合構造物に関しては、複合構造標準示方書（実際は、示方書の前身である複合構造物の性能照査指針（案））を参照することを前提としており、内容は簡略なものとなっている。 いずれの示方書も、土木構造物の全般（橋梁、港湾構造物、基礎等）を対象としています。多少、橋梁に偏ったものとなっているのは事実のようです。上記の参考の上、各示方書を見比べていただき、該当の構造物を最も合理的に設計できる示方書を選択していただけると幸いです。